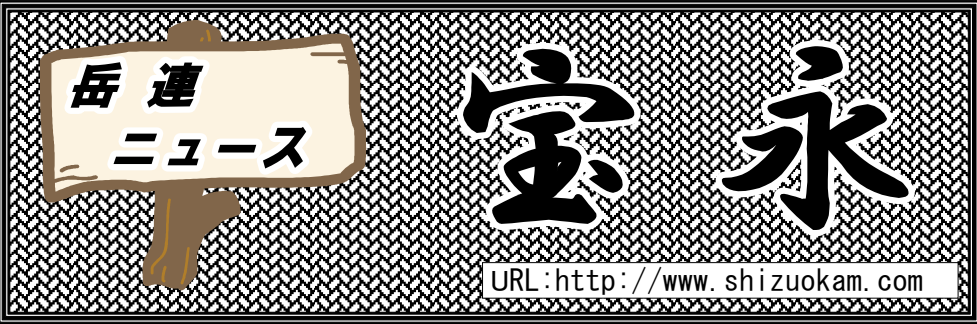




ボルダリング競技

1日目のボルダリングは、広いKOWALLの奥の壁を使い、他のカテゴリーの競技を選手・監督が観戦できるように、その都度ルートセットを行い競技が実施された。この方式は見ている側は自分の県を応援でき大変盛り上がるが、セット側の負担が大きくセットスタッフを十分にそろえた対応であったと思う。



リード競技

たい。成年女子・少年男子・少年女子が2・2・1枠の代表枠を目指して競技した。

2日目のリード競技は、鈴鹿市にある屋外壁で、晴れた暑い中、全てのカテゴリーが共通のルートで行われた。出だしの数mは比較的易しいが、中間部より、女子にとって足は深い厳しいものとなり、それに対応できたかどうかで勝負がついた。少年男子は、岐阜と三重の1名ずつが厳しい設

少年男子は、本国体でも実績のある岐阜県が日比野の全完登一撃を含め6完登と他を圧し、三重県が3完登と続いた。本県は第2課題のみの2完登にとどまり3位。少年女子は、愛知県と静岡県が6完登と並んだが、アテンプト数とボーンラス数で愛知が上回り2位と惜しいスタートとなった。成年女子は、望月の全完登一撃を含め6完登で、5完登の岐阜、三重を上まわり、1位のスタートとなった。

第36回東海ブロック大会結果				
		リード順位	ボルダ順位	総合順位
成年女子	静岡	1	1	1
	愛知	4	4	4
	三重	3	3	3
	岐阜	2	2	2
少年男子	静岡	3	3	3
	愛知	4	4	4
	三重	2	2	2
	岐阜	1	1	1
少年女子	静岡	2	2	2
	愛知	1	1	1
	三重	4	4	4
	岐阜	3	3	3

少年女子も、昨日の惜敗を取り返そうと頑張り北脇が上部に突入するがそこで力尽き、総合2位。成年女子は、岐阜の水口が唯一の完登をみせた



が、静岡は渡辺をはじめよくまとめて総合1位で念願の本国体出場となった。本国体では、両種別とも入賞に期待したい。少年女子の2人は、本国体でも十分に活躍できる実力を持っていたが、他県に有望選手が多く残念な結果となった。本年も各県の競技力が上がってきていることを実感した大会でもあった。

成年女子1位 渡辺亜梨沙・望月香菜子、本国体出場
少年女子2位 北脇順子・中村祐香梨
少年男子3位 佐野哲平・望月衛(諸戸)

静岡県山岳連盟

〒420-8076
静岡市駿河区八幡3-1-17
TEL(FAX) 054-288-7512
編集発行/総務委員会
平成27年9月7日発行
第14号

成年女子優勝国体出場

第36回東海ブロック大会 台風で日程変更

6月常任理事会

6月15日(月) 18時30分から静岡労政会館5階会議室で常任理事会が開催された。

出席者は滝田博之、清水雄三、木ノ内高嘉、前川朝夫、出利葉義次、豊田稔、高橋弘、堀内修、工藤誠志、松永義夫、大石一博、小田直美、鈴木修、田中保広、内山一彦、坂田昇(文責) 計16名

会長挨拶

①個人会員制度の発足を総会で紹介した、新聞社などプレスに掲載を依頼。

②今年から発足する「山の日」の行事が東海ブロック理事長会議で議題に、東海ブロックでは特に行事を実施しない。各県単位の事業に冠を付ける。静岡岳連も「フェスティバル」に冠を付ける。

③スポーツクライミングの指導員が不足している、指導員の養成を推進したい。

④ネパール大地震の募金別途協議したい。

⑤今年度の各事業、全員協力して推進したい。

(1) 報告事項

① 指導委員会

・指導員養成講習会、日山協からの連絡は、本人の申請で参加、出来ない場合は

県が代行する。

・スポーツクライミング指導員養成について、来週には要項にして、日山協に提出。

・夏山登山教室の参加者が18名となった。

・少年少女登山教室、宣伝をおねがいします。

② 国体

・国体の県予選会が5月6日に実施、成年男女、少年男女各1、2位が東海大会出場。

③ 海外

・ネパール地震の救援募金について

④ 東海ブロック正副会長・理事長会議

・静岡県の27年度事業報告を行った、内容は「個人会員制度」「他予定事業」「スポーツクライミングの指導員養成講座」への参加呼びかけ等。

昨年個人会員制度発足した岐阜は3名、三重は10名の登録あったことが報告された。

・三重の遭対関連報告は、

救助・捜索専門部を設置、昨年の救助・捜索依頼件数は延べ31回、303名すべてボランティア参加だった。

(2) 協議事項

H27年スポフェス

・実施の下見山行を踏まえ一部計画の変更を報告した。

・前泊コース(七ッ峰)は、距離が長く、出発、七ッ峰、天狗石までも、各15分の遅れ。

・日帰りコース(天狗石)は、時間の余裕があり、休憩時間も余分にとった。

・計画を前泊コースは出発時間を30分早め、出発と到着に車でサポートを考える。

・日帰りコースは出発時間はそのまま、閉会式の時間を早め、利用する井川線の接阻峡温泉駅の出発時間15時25分発を活用する。閉会式も前泊コースと日帰りコースを別にする。

② 国体委員会

・国体東海ブロック大会、7月18、19日、三重県鈴鹿クライミング場で実施。

・成年女子、少年男女に出場、監督は未決。

③ 少年少女登山教室…7月25日、2会場で説明会実施。

④ 岳連カレンダー

・「世界の名峰」の写真、価格1部千五百円、300部作成、次回サンプル提示。

⑤ 個人会員募集

・広報宣伝はパンフレット及びホームページ掲載、現在6月15日までに問い合わせ無し。

・岳連開催の「登山講座」でもPRする。

・24の「登山講座」に滝田会長・大石會計出向く

⑥ その他

・ネパール大地震について

・東日本大地震の時は「日山協」が募金した。

・事務局から加盟団体へ募金を依頼。

・静岡市岳連の報告

18団体のネパール関係者80名で40万円程度集まり新聞社へ送金。お金は赤十字經由ネパールへ渡す。県岳連は加盟団体へ募金の依頼を行う。

・山の日^{8/11}記念行事

・県岳連、市岳連、日本山岳会、労山の4団体合同で催しを実施し、場所

祝日「山の日」

山の日が国民の祝日として16年8月11日から施行される。

58年の立山での登山大会の折り「山の日をつくる宣言」が出されていたというから制定に実には10年にかかったことになる。

実際に10年に山岳5団体(日山協、JAC、労山、ガイド協会、HATJ)による、全国「山の日」制定協議会が発足『山を考える』リーフレットを制作して、「山の日」の啓発に努める等制定に向けた動きが本格化した。

「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」ことを趣旨とし、美しく豊かな自然を守り、次の世代に引き継ぐことを銘記する日としている。

岳連では来年の山の日に向けて、県内山岳団体(市岳連、日本山岳会、労山)と合同で「山の日」の事業と今後の進め方について実行委員会を立ち上げ協議に入った。

山の日の意義を広く浸透させるためにも、山岳関係者には多くの市民の目に留まるイベントの開催が望まれる。(木ノ内)

編集後記

先般静岡県は「山のグレイディング」を発表した。登山者が「自分の力量にあった山選び」をするための資料として提供したものだ。山岳会のチェックがない未組織の中高年登山者等は、登りたい山を優先した選定になっていないか。過去の体力、経験を引きずった山選びなどがないか。「山のグレイディング」を参考に初心に帰って山行計画を立ててほしいと思う。(TK)

第3回夏山登山教室開催 座学、練習登山、常念岳へ

指導委員会主催の夏山登山教室も、今年で3回目である。今年は、秋山と雪山の教室も実施することになったので、そこへの継続も考えての内容設定を行った。夏山自体の内容は、これまでと同様、1回の練習登山と2回4時間の座学をセットにして募集するもので、今年はメインの山行を、蝶が岳、常念岳の縦走(7月25日、26日)とした。練習登山は、昨年と同じ、安倍奥山伏岳(7月12日)である。



毎年、広報に苦労するが、今年は少しやり方を変えたところ、初めて定員をオーバーして18名の応募があった。リピーターも何人かいて、この教室が少しずつ定着してきていることを感じた。その後、キャンセルがあったりして、最終的な参加者は14名だったが、きちんと目配りのできる人数としては、やはりこれくらいが限度であろう。また、受付に際して、今年度から募集を始めた岳連個人会員制度への参加を募ったところ、上記の参加者から3名の申し込みがあった。

面に広がる槍・穂高の大展望と咲き乱れる花々に皆さん大感動であった。座学は、「夏山の基本装備と使い方」「読図の基本を知る」「夏山の気象」「歩行技術と安全対策」という四つのテーマで行った。



変意欲的で、楽しく充実した教室となった。なお、山中は事故もなく下山したが、その後、少々のアクシデントがあった。往復の道中は10人乗りのレンタカー2台を用意して対応していたが、そのうち1台が山道で脱輪し、ジャフを呼ぶ羽目になったのである。受講生を乗せていたときではなく、誰かが怪我をしたというわけでもない。しかし、この処理のために静岡帰着が大幅遅れてしまい、受講生の皆さんには迷惑を掛けることになってしまった。アプローチの交通機関をどうするかは、今後の課題である。(小田)

親子で富士山頂へ

少年少女登山教室 富士宮口から

8月7日、8日、日山協主催、静岡岳連主管の「少年少女登山教室」が親子で登る富士登山として、富士宮口コースで行われ、8組の親子17名とスタッフ5名が参加した。7日、富士宮駅南口に集合し、バスで五合目に

向かう。五合目で開講式と諸注意を行い、3班に分けて登山開始、六合目の「雲海荘」を目指す。火山灰土に足を取られながらも六合目まで順調に到着。その後、宝永火口まで散策を楽しんだ。山荘前で

は夕空に映る影富士に、子供たちは大喜びであった。8日、5時雲海荘を出発し頂上を目指す。元祖七合目手前で保護者が不調となり下山。子供たちは苦しみながらも一歩一歩の歩みを進め八合目、九合目と順調に高度を上げていくが九合目で子供1名が高山病で下山。先頭の班は、順調に登山を続け10時過ぎ、山頂に到着し、11時前に全員が揃う。



山頂では、奥宮にお参りし記念撮影の後、山頂郵便局から登頂の記念はがきを出したり、昼食を各自摂り登頂の満足感に満ちた時間を過ごした。山頂到着時から体調不良で心配だった子供も、下山するに従い元気を取

り戻し、親御さんともども安心した。15時過ぎ六合目の雲海荘に帰着、16時前五合目に下山した。帰りのバスの中で登山教室の修了証書を参加者全員に手渡した。家族からは、参加して大変良かったこと、親の体力不足を痛感し、事前準備の必要性を感じたことなどの感想があった。子供たちは一生懸命に頑張った日本一の山頂に立ち、成し遂げた達成感を十分に味わうことができた。

富士登山という目標に向け、親子が励まし合い、協力し合いながら登頂できたことは、各自の自己史に貴重な体験として深く刻まれると共に、親子のきずながさらに強まったことだろう。子供や親にとってさまざまな有益効果をもたらした親子富士登山であった。全員登頂には至らなかったが、無事故で全員下山できたことは何よりの成果だ。公益活動に寄与できる事業で、今後も継続していきたい。(前川)

全国高校総体登山大会

男女共健闘するが入賞逃す

全国高等学校総合体育大会登山大会が8月7日、11日に滋賀県の高島トレイル(乗鞍岳・大谷山、比良山系(蛇ヶ峰))を会場として行われた。高島トレイルは滋賀県と福井県・京都府県境をなす中央分水嶺にあたり、自然度の高いブナ林が広がっている。近年は整備が進み、トレランやスノーシューハイイクで注目されている。



静岡県からは男子が浜松日体高校、女子が富士宮西高校が出場した。今回は雨にたたられた昨年の神奈川大会とは打って変わって猛暑との戦い

になった。登山中はずっとより、幕営地となったマキノ高原スキー場も、高原というのは名ばかりで、まさに灼熱地獄であった。暑さで体調を崩す選手が続出し、行動離脱も複数チーム発生した。登山行動中に、ヘリコプターで救助された選手もあった。女子は18年連続の全国大会出場で、昨年度4度目の全国制覇を果たした富士宮西高校に期待が寄

せられた。しかし、総合成績7位に終わり、平成17年度の千葉大会以来10年間続いていた入賞を逃した。特にこの10年間はすべて3位以内という圧倒的な強さを誇っていただけに、選手たちは非常に悔しい結果だったと思う。読図と記録書のミスが大きく響いた。男子の浜松日体高校は総合順位13位であった。特に男子は女子以上に各チームの完成度が高く、90点(100点満点)では参加47チーム中下位10チームに入ってしまうという大混戦である。登山競技

大会結果(6位まで入賞)		
	男子	女子
1位	修道(広島)	盛岡第一(岩手)
2位	長崎北陽台(長崎)	長田(兵庫)
3位	秋田南(秋田)	五日市(広島)
4位	土佐(高知)	大村(長崎)
5位	神戸(三重)	千葉東(千葉)
6位	仙台三桜(宮城)	城ノ内(徳島)
7位	—	富士宮西(静岡)
13位	浜松日体(静岡)	—

は出場を積み重ねることによって蓄積された学校としての経験がものをいう。7年ぶり2度目の出場である浜松日体高校の13位は大健闘といえる。

豊田自然保護委員長 功労賞

豊田稔自然保護委員長が6月26日、静岡市のホテルセンチュリーで行われた体育賞贈与式で静岡県体育協会から功労賞を授与された。

豊田氏は、昭和38年から常任理事、副会長、自然保護委員長として、本連盟の円滑な運営と発展に努めた。また、日本山岳協会の自然保護委員として、協会事業の遂行を積極的に行い、高い評価を得た。

静岡県民スポーツ祭及びしずおかスポーツフェスティバル登山大会の西部地区の責任者として、大会の企画・運営を行い成果を上げた。平成15年静岡国体山岳競技では、運営部長とし



山者の指導、登山道の状況、天候などの情報提供を行い、遭難事故防止に努めたことなどが高く評価され受賞したものである。(滝田)